

e-ビーフNEWS 北の牧場から

June 2019

十勝のなつぞら

暑い日々が続いています。まだ5月なのに38℃超えはないですよ。全国放送のTOPになりました。そして雨が降らない。先日1日中降り、これが十勝では7ヶ月ぶりの長雨だったそうで、危なく「十勝砂漠」が地図上に記載されるところでした。これでやっと緑が息を吹き返し、風景全体が緑に覆われています。NHK連続テレビ小説「なつぞら」に出てくるあの雲がぼかりと浮いた画面がそのままです。農家も一安心。植え付けしたビートやトウモロコシはやっと根付きました。ジャガイモも順調に顔を出しはじめ一気におい茂ってきました。カッコウが鳴き始め、十勝の主産物 豆の蒔きつけが始まりました。



活動のお知らせ

5月18日(土) 11:00 帯広畜産大学 逍遙舎 環境リサイクル肉牛協議会第20回総会
肉牛飼養技術研修会が20名参加で開催されました。
第20回定期総会では2018年度事業報告・2018年度決算報告、
2019年度事業計画・2019年度予算が承認されました。
引き続いて行われた肉牛飼養技術研修会榛澤牧場の
オーガニック飼養内容検証…道総研 畜産試験場 佐藤技師、
シンポジウムテーマのスマート農業について話題提供…デザミス
昼食(e-びーふ試食)では、榛澤牧場のe-びーふ、黒毛和牛の食べ比べが行われました。



NEWSばか読み

- 貿易統計 3月のブドウ輸入量が7600tと過去最高(昨年実績3万7千t) 5/4:恩恵?
- インターテスラ(大樹町)ロケット宇宙到達で民間初成功 5/5:ついに…長かった
- 総務省 子供(14歳以下)人数推計で1533万人昨対18万人減 5/5:止まらず
- 中標津バイオマス 乳牛メーカー排出洗浄ミルク使用の肥料が好評 5/6:循環
- バイオスティミュラント(BS)の資材技術に世界的農家が注目 5/6:日本ではボカシ
- 日仏 ワイン用ブドウ苗木の輸入検疫1年間隔離を緩和 5/8:ワインが増える
- ビーツ(赤カブ)ホクレン・北大と産地拡大に取り組む 5/10:赤ブーム
- タカハシ乳業(前橋)有機JAS認証シュガレディーPジャージー牛乳発売 5/13:いいね
- 農林水産省 農地的確法人のグループ会社化の役員要件緩和 5/13:多様性
- G20農相会議で農業AI化やロボット活用提言 5/13:まだまだ一歩
- 輸入牛肉 TPP4カ国関税下げから16%増 5/14:明らか効果
- 岩手県滝沢市 農用馬の試験使用開始 5/14:ゆっくり進もう
- 別海町 廃棄草活用型のバイオマス発電稼働順調 5/14:循環
- 衆議院特別委員会一致で食品ロス法成立へ 5/15:さて実行
- 農林水産省 馬肉骨粉の豚・鶏飼料利用可能 5/15:牛はまだまだ
- EU酪農 搾乳時間の変動でサマータイムの廃止へ

- 5/15:人間タイムではないね
- 農林水産省 畜舎堆肥舎のコスト減から建設規制の緩和検討 5/18:資材コストがUP
- 政府 欧米向けの牛肉輸出の認定施設増を促進 5/18:間に合うか
- 牛マルキン 肉専で11道県発動 5/18:和牛肥育の採算ライン限界近付く
- FAO予測 アフリカ豚コレラの蔓延で中国の豚肉輸入急増 5/18:豚食べるからな
- コンビニ・スーパーの中食(惣菜弁当)が9年連続増加10兆円市場 5/20:需要に変化
- JAふくしま未来 飼料米生産3,000ha超に拡大 5/21:福島ブランド苦戦続く
- 鳥取県 和牛精液の流通適正化で条例設定 5/22:県行政が早い
- 気象庁 世界の平均気温が1℃UPすると国内猛暑日1.8倍に増える 5/23:暑さ対策
- 留萌地方 農漁業建設間の労働力融通システムを開発 5/24:労働の多様化検討
- 2018年度牛肉の自給率34.9%に減少 生産1%伸びたが輸入1割増 5/27:これが進行、需要の変化が始まる
- 希釈飲料の伸び11% 市場急拡大 5/27:機能性との関係
- サントリー ペット容器を回収と植物由来で100%循環 5/27:環境重要視企業評価
- 水産庁 水産物のトレサビシステムをIT管理開発し普及へ 5/29:魚も管理
- おかやまコープ 飼料米給与の4畜種そろい看板産直ブランド化へ 5/30:統一の理念
- 貿易統計 4月食肉輸入量急増牛8%豚23%過去10年間で最多 5/31:黒船が来た

東京直近NEWS (5/29 Shi-REPORT)

ホルス

相場は上げ基調で推移。頭数出回りの減少傾向変わらず、各社取り扱い減っており在庫も少ない模様。販売状況は5月大型連休以降、荷動きはあまり良くなく状況も絶対頭数の不足から、焼き材時期も、バラ系やスライス材全般不足感あり。特に加工系の冷凍アイテムの問い合わせが多い印象。末端も交雑へのシフト進んでいるが、ホルス需要がゼロの状況ではなく、定番の切り落とし関係は需要あり。夏場以降も頭数の回復は見込めず資源不足は続く模様。頭数不足から相場も堅調が予測されており、産地工場は稼働にも今後影響が出る可能性も。末端は相場上昇も売価への転嫁が遅れており、価格交渉が強まる。

経産牛

経産牛相場は急騰状態。ガリ枝でも枝@500以下の価格は皆無の状況。出回り頭数少ない点が一番影響大きく、産地工場は稼働にも影響出ており在庫も逼迫。赤身パーツ含めて全体頭数不足からパーツは不足しており、価格も上昇中。特に挽き材の在庫が少なく、大手量販や加工系からも逼迫状況の連絡多い。完全に出回り頭数の不足と前年からの在庫が薄く、メーカーも在庫なしの状態。コストも直近の枝肉相場の上昇影響を受けており急騰しており、値上げ改定の状況。例年でも夏場に向けて出回り頭数減少し、今後さらなる頭数不足が深刻化。経産牛相場高騰とアイテム供給不足が懸念される。

左先生の畜産学研究NEWS

平成から令和への改元お祭りムードも一段落して現実の課題が残されていることに国民が気づきました。米中貿易戦争は先行きが読めず、日米貿易交渉でも日本農業はTPP水準の維持に躍起となっていますが、自動車の関税と農産物特に牛・豚肉の関税との取引には予断を許さない状況です。日米両国の政治的都合で農業が割を食う結末でwin-winとするのは恵みの雨の恩恵がある時だけ、自然環境相手の農業と地球環境は厳しい覚悟が必要なのです。世界的な水不足や高温と、その後の豪雨・低温など人間の農業生産には不安な要素が多数あります。異常天候を防ぐ技術開発と異常気象に対処する技術の開発はグローバルな課題で世界的連携が求められていると思います。e--びーふNews66号の学術情報は以下の通りです。

1. 畜産技術#768, 2019.5

1) 技術情報: 兵庫県黒毛和種集団における枝肉の画像解析形質を対象としたゲノムワイド関連解析(笹崎晋史、神戸大院農)

黒毛和種牛の枝肉画像解析形質であるロース脂肪割合、脂肪交雑粒子形質の兵庫県内黒毛和種集団における遺伝子責任変異の探索にゲノムワイド関連解析(GWAS)を行いました。ロース脂肪割合は第7,12染色体上のSNPが5%有意水準にあり、QTLになり得る可能性が示されました。

2) 国内情報: 和子牛価格の循環的変動の変化と交雑種雌牛活用の重要性(藤岡豊陽、畜技協)

黒毛和種子牛の価格の高止まりは日本の肉牛産業に多大な影響を及ぼしており肉用子牛の生産拡大に交雑種雌牛の活用が必要です。肉用子牛の生産拡大には搾乳牛の受精卵移植による和子牛生産がありますが、子取りより未経産で肥育に回される雌牛は77%に及んでいます

(2008-2018年)。これら交雑種雌牛の1産取り肥育は1年期間が伸びますが子牛生産では意義があります。

2. 栄養生理研究会報Vol63.1.(2019)

肉用去勢育成牛における長距離輸送による代謝障害と第一胃内保護ナイアシンもしくはコリンの補給による低減(武本智嗣、全農)

北海道から茨城県まで1日間絶水・絶食で輸送した6ヵ月齢の乳用種去勢育成牛の代謝プロファイルテストを行うとニコチンアミドの低下、ナイアシン不足がみられ、黒毛和種牛等の肉用去勢牛の絶食絶水輸送はコリン不足を起し易く、これらの牛に第一胃内保護ナイアシンやコリンの100g/日で7日以上補給で体重減少などの軽減効果がみられました。

3. 日畜会報Vol.90: 2, 121-131(2019)

黒毛和種去勢牛26ヵ月齢出荷体系における発酵TMR給与が肥育成績および牛肉品質に及ぼす影響(安部亜津子他、島根畜技セ)

8ヵ月齢の黒毛和種去勢牛を育成牛期から26ヵ月齢出荷まで市販配合飼料とチモシー主体の購入牧草で3週間以上発酵TMR調整し、その給与効果を肥育成績について検討しました。TMR給与で体重、DGに有意な効果はなく、消化器疾病や肝機能障害の発生が低下する傾向が見られ、枝肉成績も29ヵ月出荷と同等で、発酵TMR給与の安定した肥育効果が期待されました。

国産牛 NEWS

話題提供3.「有機畜産の理想と現実」 全4回シリーズ①
北里大学獣医学部附属 FSC八雲牧場 小野 泰 係長



はじめに

- ・函館から北へ約80kmの八雲町
- ・年間降水量: 約1500mm
- ・年間平均気温: 約7.5°C
- ・敷地面積: 約370ha
- 採草地: 約100ha 放牧地: 約120ha 林地: 約150ha
- ・草種: OG・TY・RCG・WC・RC
- ・飼養方法: 夏山冬里方式 (5~10月放牧、11~4月舍飼)
- ・飼養頭数: 280頭 (増頭中)
- ・資源循環を考えた自給飼料100%肥育

